

<北海道熊研究会報>

第 23 号 2014 年 4 月 3 日

ご意見ご連絡は下記へどうぞ

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭 e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association

Website は「北海道野生動物研究所」と入力して下さい

「北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association の活動目的

熊の実像について調査研究し、熊による人畜及びその他経済的被害を予防しつつ、人と熊が棲み分けた状態で共存を図り、狩猟以外では熊を殺さない社会の形成を図るための提言と啓発活動を行う。

この考えの根底は、この大地は総ての生き物の共有物であり、生物間での食物連鎖の宿命と疾病原因生物以外については、この地球上に生を受けたものは生有る限りお互いの存在を容認しようと言う生物倫理(生物の一員として人が為すべき正しき道)に基づく理念による。

<熊と人の年齢換算>

円山動物園で飼育していた雌熊が、満 41 歳で、疾病原因でこの 3 月 28 日に安楽死させたと言う。人間に換算すると 120 歳だという記事が 4 月 2 日北海道新聞朝刊に載った。これは正しいのか。人と他種動物との年齢比較はどうするのか。全身の生理状態を普遍的に統括した絶対的換算法はない。しかし生物の要は種の維持にあるから、繁殖年齢の一つである出産年齢を基準に熊と人の年齢を比較する方法がある(門崎が開発した)。換算法は野生熊の出産年齢の範囲は 4 歳から 27 歳であること(門崎の報文にある)。そして、婦人の出産年齢は 15 歳から 53 歳(札幌医科大学田中昭一助教授)ぐらいであること、を基準とし、算出する方法である。式は次のように表される。

(熊の年齢-4) × 1.652 + 15 = 人の年齢である。すると、熊の年齢が 41 歳であれば、人に換算すれば、76 歳である。120 歳などでは有り得ない。なお、熊の出産期は 1 月から 2 月中旬であるから、野生熊の年齢推定に当たっては出生日を便宜的に 2 月 1 日に統一して計算する。熊の年齢 4 歳は人に換算すれば 15 歳であり、熊の年齢 27 歳は、人では 53 歳である。それ故、熊の 41 歳は人では 76 歳である。猫や犬の年齢比較も、同じ手法で出来得るが、犬猫は、品種で出産年齢が異なるので、品種毎の換算式を。北海道での野生熊の最高齢は、幌延町で 1980 年 9 月 11 日に殺した 34 歳の雌である。熊類の年齢は歯のセメント質に出来る年輪を算えると分かる(門崎の報文がある)。殺さなければ、さらに長生きしたであろう。無益な殺生は止めたい。

2013 年 11 月 5 日、UHB 大学主催で、「熊とは、そして、札幌の市街地に熊が出て来る本当の理由」と言う題で、門崎允昭が約 80 分間、道新ホールで 500 名程の聴衆に講演をした際の全文の、今回はその 4 回目として、下記文章を掲載致します。お読み下されば幸甚です。

[9] 大陸と各日本列島間の海峡の海水面が低下し、大陸と日本列島の各島が陸続きになったこの時に、アジア大陸から朝鮮半島を通して、九州・本州に月輪熊と熊が移住してきた訳です。

九州・本州に両種の熊が棲んで居たことは山口県や栃木県や青森県の石灰岩の採石場から、両種の化石が見つかっていますので、間違いありません。

それでは、本州以南の熊はその後どうしたのか。と言うことですが、熊は元来、冷涼な気候を好む体質であることから、氷河期後の、温暖化した気候に、適応しきれず、絶滅した、と私は考えています。北海道からは、この時代の熊類の化石は見つかっていません。北海道で見つかる熊の骨や歯は、古い物でも 1 万年ぐらい前の化石化していないもので、しかも総て熊で、月輪熊の骨や歯は人が持ち込んだ物以外見つかっていません。

ですから、月輪熊は、本州から津軽の陸橋を通して一時的に少数が北海道に移住した可能性はありますが、安定した状態で、月輪熊が北海道に自然分布していたことは、無かった、と言うことです。そして北海道に熊が移住してきたのは、本州よりも新しい時代で、それは今から 7 万年前～1.5 万年前の 5.5 万年間続いた最後の氷河期で、津軽海峡が海となり、日本列島のうち、北海道だけが、サハリンを介してアジア大陸の沿海州と陸続きになっていた時に、渡来してきたと言うことです。

[10] 次に、北海道の熊の実態についてお話します。

北海道は面積が日本全土の 20%を占め、九州の約 2 倍あります。今から 150 年前（これは明治になる 5 年前ですが）、当時は、人が住む集落地以外はほぼ全域が森林と灌木が生える湿地帯で、その全域が熊の生息地（熊が長期に続けて使っている場所）ないし出没地（熊が時々使う場所の事）で、生息数は 4,500 頭ないし 5,500 であったと、私はみています。そして、150 年後の現在はどうかと言いますと、現在全道の土地利用区分を見ますと、全道面積の 71.5%が森林地帯で、宅地農牧地など、人の日常生活地は 28.5%です。現在の熊の生息域は、全道面積の約 50%で、森林地帯と森林に囲まれた山岳地帯が生息地です。生息数は私の推算では、1900 頭～2300 頭で、この内毎年年間 300～600 頭が殺されており、この数は 40,50 年前と変わりません。現状の熊の殺し方は、檻罠に熊の好物の色々な餌を入れ、熊をおびき入れ、被害を予防すると言う理由で、罪のない多くの熊を銃殺しているのが実態です。 (了)